

2020年度第2回豊岡市障害者自立支援協議会全体会議 会議録要旨

注) 会議録については、発言内容を一言一句正確に整理したものではありません。
発言内容をもとに一部表現(文言)を変えて表記している箇所があります。

○日 時：2021(令和3)年3月26日(金)13:30~15:30

○会 場：豊岡市立野庁舎 1階 多目的ホール

○出席者：17名(内代理2名)

○欠席者：4名

○会議要旨

1 開 会

2 あいさつ

3 正副会長選出

会長 久木田 憲彦 委員

副会長 田垣 正晋 委員

4 報告事項

(1) 障害者自立支援協議会10年間の取り組みについて

- ・ 資料に基づき説明

(2) 豊岡市障害者福祉計画について

- ・ 冊子に基づき説明

(3) 運営会議及び部会からの報告について

- ・ 資料に基づき説明

5 協議事項

(1) 障害者基幹相談支援センターの状況と今後のあり方について

- ・ 資料に基づき説明

○ 質疑応答等

≪5(1) 障害者基幹相談支援センターの状況と今後のあり方について≫

【副会長】

協議事項の基幹相談支援センターについて、体制整備については市の業務になるので議論の対象外として、機能についての意見交換としたい。

【D委員】

運営会議でも議論しているが、相談件数が年々増加しており相談支援専門員が疲弊している状況である。特に児童については、なかなか相談支援事業所に繋がらないケースもある。課題の解決の糸口がない中で、社協が基幹相談支援センターの業務を廃止される。

これからの豊岡市の相談支援体制全体をどうするのかということ突き付けられていると思う。

運営会議で市外の事業所の方から、今まで考えていた行政、サービス提供事業及び相談支援事業所の役割とは異なる体制での相談支援をされている話を聞いて、それぞれの役割を見直さなければ立ち行かないと感じている。今後、どの機関が担うにしても根本を見直さなければ厳しいと感じている。

【P委員】

在校生で基幹相談支援センターと関わりのある方もいる。学校も先生が少なくなっているが、生徒が抱える問題も多様化しておりなかなか対応が難しい。保護者から障害福祉サービスに繋がりにくいとの声は聞いている。

【Q委員】

放課後等デイサービスを利用されている児童の保護者が、県立の特別支援学校と私立の学校で始業式等の日程等が異なるため利用が難しいという話を聞いている。

【H委員】

身体障害者福祉協会では相談支援を行っており、協会の相談員がこまめに支援をしているが、組織として相談の範囲を広げたりすることは難しい。

【I委員】

家族会としては、家族に対して支援を行っている。

【S委員】

複合問題の解決には時間がかかる。今の状況はかなり厳しいと思う。それぞれがレベルアップしながら、どのような体制になるにしても協力体制が必要である。

また、専門性を持った人材確保が課題である。

【K委員】

ランチについては、県下で異なる法人が運営している。各法人に所属しながら、スペシャリスト（個人）に委託して体制を整えるという方法もあると思う。

【M委員】

家族支援が必要な方の生活支援を、基幹相談支援センターとともに行ったことはあるが、とても大変な業務と感じた。

【副会長】

基幹相談支援センターを市が直営するのであれば、どれくらいの期間で行うのかを考える必要がある。苦勞なく進めることは難しいと思うので、他機関と情報を共有する場を設ける必要があると思う。

また、行政が直営する場合、ギブアップできない（退路がない）。人員の増加も難しく、対応できることの限界もあるので、体制と内容を十分検討してほしい。

基幹相談支援センター業務の中で、虐待に係る機能が低下することは、障害者の生命に関わる恐れがあるので、慎重に検討してほしい。

- 6 その他
- ・ 特になし

7 閉 会